幼児とのり

林　健造

一、舌切雀

舌切雀のお伽噺は、雀がおばあさんの洗濯のりをなめたために、はさみで舌を切られてしまいます。

雀の舌だから、さほどの量でもあるまいにこのばあさんは本当に残酷でケチです。だから、あくたのいっぱい入った葛籠を背負わされるはめになるのです。

このときの洗濯のりは、当然でん粉のりですから雀がなめるのです。樹脂系のセメダインなどだったらなめる筈はないし、それどころか上下の口ばしがくっついちゃって、雀もさぞ大事でしょう。これは少しわるのりでした。

二、幼児とのり

大体、造形活動の原理は、たし算とひき算です。プラスの造形は、のりを中心とした接着の造形です。マイナスの造形の方は、はさみを中心とした切ったり、分けたりする造形です。

幼児は紙に出合うと、"Who are you?" と問いかけると同じ気持で、それを破いたりちぎったりして遊びます。これを通して材料体験をしているわけです。次に、のりに出合い、ものとものとがくっつくことを覚えると、急激にその子の造形の幅が広がります。

三、のりつけ指

ところが中には、のりづけの嫌いな子がいます。手が汚れるから嫌いというのもありますが、その原因の一つに〝のりつけ指のしつけ〟があります。

よく教師の中には、〝のりは中指でつけるのよ、他の指はだめよ〟などと喧しくいう人がいます。

造形活動の中で、技術に関わるところは、教えることのできる処ですが、だからといって強制すると、もうそれだけで幼児は作ることまで嫌いになってしまうことがあります。

この〝中指のしつけ〟も、考えてみるとまったく大人の発

想で、のりのついた中指を使わず、人さし指と拇指で紙をつまんで貼るのに都合がよいということなのです。

ところで五指のうち、一番使い易い便利な指は、はたして中指でしょうか。

紙の隅々までのりをつけるなどという高等技術は、よほど使いやすい指でないと無理です。私はどうも中指よりは人さし指が使いやすいと思います。その証拠に、鼻くそなどをほじるのに中指を使っている子は見たことがないし、またデパートの玩具売場などで、〃ママー、あれ買ってェ！〃と駄々をこねてる子どもも、中指で指さしている子など見たことはありません。

幼児時代は、使いやすい指でつけさすことがのぞましいことで、人さし指が汚れてこまるなら、むしろ手ふきの布を用意することの方がずっとよいと思います。

四、のりのクリーム

おかしなしつけといえば、のりに関してはもう一つあります。

〃のりはべたーんとつけないで、よく指であちこちにのばして、紙全体につけるのよ〃と、いつもいつも同じことをくり返していう人があります。

中には、〃ママのお顔のクリーム〃などの例話を使って〃のりのクリーム体操〃などというう巧い手を使う人もいます。

「ママはお顔にクリームを塗るとき、ちょん、ちょんとつけてから手で、あっちこっちにのばすでしょう。だからおのりも……」

というわけですから、これものりは紙全体にのばしてつけるということには変りありません。

ところでいつもいつも紙全体にのりをつけていたら、えらいことになります。

輪つなぎなどはできません。これはテープの一辺にだけのりをつければよいのです。そのように、ある部分にちょんとつければいいときもあるのですから、そのときどきによって対処できるように指導すべきだと思います。

一般にのりはたくさんつけ、早く貼ると着くと思われがちです。どののりもちょっと待つ（オープンタイム）が必要です。とくにセメダインなどの接着剤は、指でつけないこと、つけたら10位数えてからはることが肝心です。

（十文字学園女子短期大学）